

## 論 文

## 歯科技工士学科学生の口腔清掃への意識と関心

計 良 倫 子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

## The Awareness and Concern about Oral Care of Dental Technician Students

Tomoko Kera

Department of Dental Hygiene and Welfare, Meirin College

歯科技工士学生は将来、歯科技工士として患者一人ひとりに合わせた歯科技工装置を作製し、口腔内状況を向上させることを目的に入学しているが、自身の口腔内状況に興味を持つことや、口腔内疾患の基本的な知識を身につけることも必要と思われる。そこで、歯科技工士学生に対し、自身の口腔清掃および清掃用具の使用、口腔内状況への意識について調査を行った。その結果、1日3回歯磨きをしている学生は、平成27年度生が34.5%、平成28年度生が62.5%、平成29年度生が32.0%、デンタルフロスについて知っている学生は、平成27年度生が44.8%、平成28年度生が51.5%、平成29年度生が56.0%、歯間ブラシを知っていると答えた学生は、平成27年度生が89.7%、平成28年度生が81.8%、平成29年度生が92.0%であった。う蝕の進行について知っている学生は、平成27年度生が51.7%、平成28年度生が24.2%、平成29年度生が16.0%、歯周病の進行について知っている学生は、平成27年度生が17.2%、平成28年度生が27.3%、平成29年度生が36.9%であった。今後は、歯科医療従事者として正しい知識を身につけることを目指した講義を実施すると同時に、正しい口腔清掃法も身につけ、将来の歯科医療従事者としての自覚を持つ一助としたいと考える。

キーワード：歯科技工士学科学生、口腔清掃、意識

Keywords: Dental Technician Students, Oral Care, Awareness

## I. 緒 言

歯科技工士学生は将来、歯科技工士として患者一人ひとりに合わせた歯科技工装置を作製し、口腔内状況を向上させることを目的に入学している。そのためには、口腔内疾患について基本的な知識を身につけることはもちろん、自身の口腔内状況に興味を持つことも必要と思われる。加えて、歯科医療従事者となる以上、自らの口腔清掃状況にも目を向け、正しい口腔清掃法により口腔内状況を改善させていくことも必要であると考えられる。しかし、歯科技工士学生に対し口腔清掃法について講義・実習を実施している教育機関は少ないと思われる。

本学歯科技工士学科では、平成24年より、歯科衛生士教員による、歯科疾患と口腔清掃法の講義・実

習を行っている。講義内では、口腔の2大疾患について、実習では正しい口腔清掃法と補助用具の使用法について学び、自らの口腔内状況の理解と正しい口腔清掃法の習得をすすめている。今回歯科技工士学科学生に、自身の口腔清掃および清掃用具の使用、口腔内状況への意識について調査を行った。

## II. 対象および方法

対象は、平成27年度から29年度に入学した、歯科技工士学科1年生89名（平成27年度生30名、平成28年度生34名、平成29年度生25名）である。初回講義時（5月）に、歯科疾患と口腔清掃法について一部自記式多項目選択式質問紙を使用し、無記名にて調査を行った。質問は、1. ブラッシング時間、2. デンタルフロスの認知度、3. デンタルフロス使用の

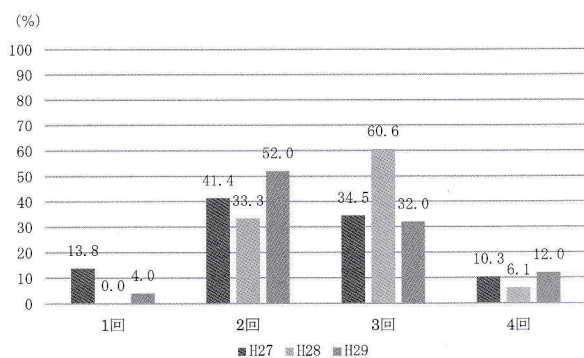


図1 1日のブラッシング回数

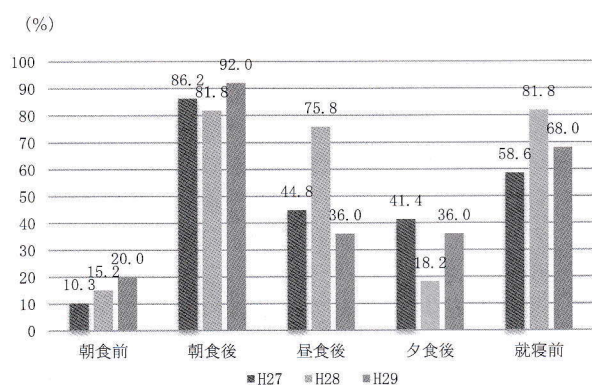


図2 ブラッシングをする時間

有無, 4. 歯間ブラシの認知度, 5. 歯間ブラシ使用の有無, 6. う蝕について知っていること, 7. 歯周病について知っていること, の7項目である。ただし, 無回答の項目があるものは除外することした。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 歯磨きについて

1日に3回口腔清掃を行うと答えた学生は, 図1に示す通り, 平成27年度生が34.5%, 平成28年度生が60.6%, 平成29年度生が32.0%であった。ブラッシングをする時間は, 図2に示す通り, 平成27年度生では朝食後が最も多く86.2%, 次いで就寝前が58.6%, 昼食後が44.8%であった。平成28年度生では, 朝食後と就寝前が最も多く81.8%, 次いで昼食後が75.8%であった。平成29年度生では, 朝食後が最も多く92.0%, 次いで就寝前が68.0%, 昼食後と夕食後が36.0%であった。どの学年においても, 朝食後が最も多い結果となった。

#### 2. デンタルフロスについて

デンタルフロスを知っていると答えた学生は, 図3に示す通り, 平成27年度生が44.8%, 平成28年度生が51.5%, 平成29年度生が56.0%であった。また,

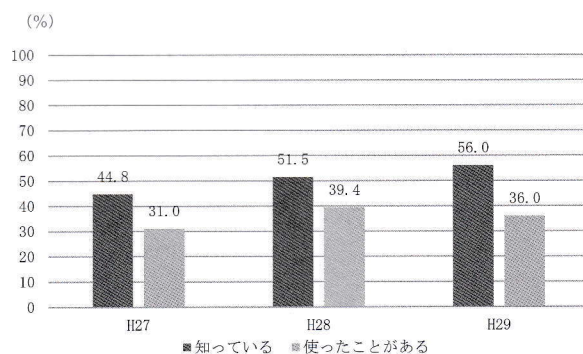


図3 デンタルフロスの認知度と使用率

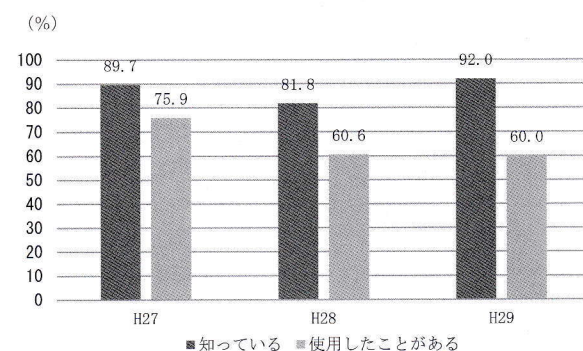


図4 歯間ブラシの認知度と使用率

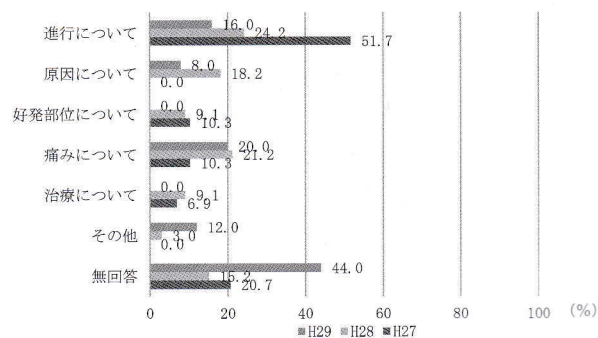


図5 う蝕について知っていること

デンタルフロスを使用したことがあると答えた学生は, 図3に示す通り, 平成27年度生が31.0%, 平成28年度生が39.4%, 平成29年度生36.0%であった。

#### 3. 歯間ブラシについて

歯間ブラシを知っていると答えた学生は, 図4に示す通り, 平成27年度生が89.7%, 平成28年度生が81.8%, 平成29年度生が92.0%であった。また, 歯間ブラシを使用したことがあると答えた学生は, 図4に示す通り, 平成27年度生が, 75.9%, 平成28年度生が60.6%, 平成29年度生が60.0%であった。

#### 4. う蝕について

う蝕について知っていることでは, 図5に示す通



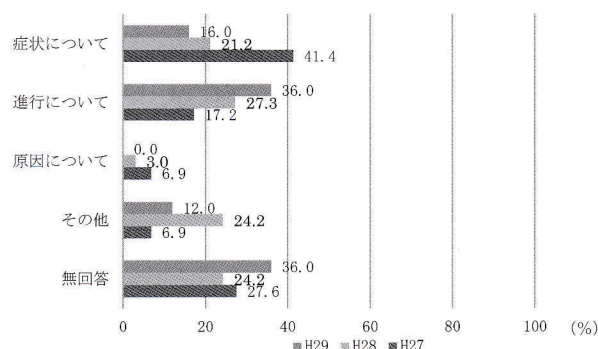


図6 歯周病について知っていること

り、進行について答えた学生が平成27年度生では51.7%，平成28年度生では24.2%，平成29年度生では16.0%，痛みについて答えた学生が平成27年度生では10.3%，21.2%，平成29年度生では20.0%であった。

#### 5. 歯周病について

歯周病について知っていることでは、図6に示す通り、症状について答えた学生が、平成27年度生では41.4%，平成28年度生では21.1%，平成29年度生では16.0%であった。進行について答えた学生は、平成27年度生では17.2%，平成28年度生では27.3%，平成29年度生では36.9%であった。

### IV. 考 察

平成28年の歯科疾患実態調査<sup>1)</sup>によると、1日3回以上歯を磨く者の割合は27.3%であり、本学歯科技工士学科の学生は、どの年度でもこれを上回っている。歯科医療従事者を目指す学生であることから、口腔清掃に対して意識が高い学生が多いと思われる。

ブラッシングを実施する時間については、どの年度も朝食後が80%を超えており、日々の身だしなみや習慣の1つとして、ブラッシングが身につけていることが伺える。しかし、昼食後に磨く学生は、平成27年度生と平成29年度生では50%を下回っていることから、学校という集団の中で、ブラッシングすることに抵抗を感じたり、限られた休憩時間をブラッシングに費やしたくないと考えたりする学生もいると思われる。また、20～29歳の朝食欠食率をみると、男性が24.0%，女性が25.3%であることから<sup>2)</sup>、朝食を摂らないことにより、歯磨きを実施する時間を朝食前と回答した学生もいると思われる。さらに、夕食後と就寝前についても、個人の判断が分かれたことにより、回答が分散したことも考えられるため、今後はこれらのことも踏まえ、質問内容を精査して必要があると思われる。

デンタルフロスに比べ、歯間ブラシの認知度が高いのは、テレビコマーシャル等で歯間ブラシという言葉をよく耳にするため、と考えられる。一方、デンタルフロスは歯間ブラシと同じ用途であるにも関わらず、歯間ブラシに比べ認知度が低いことから、講義や実習において、その使用法や有効性について周知していくことが必要と思われる。また、今回の質問ではデンタルフロスや歯間ブラシの実物を事前に見せたり、写真を掲載したりすることはなかった。そのため、2種の清掃補助用具を見たことはあっても正確な名称を知らない学生もいたのではないかと考えられる。

う蝕や歯周病については、歯科医院等である程度の知識を身に付けることができていると思われる。しかし、中には間違った回答をする学生も見られたため、正確な知識を身に付けていくことが必要と考える。どちらの回答においても、使用する言葉は一般に知られているものであるため、今後は、歯科医療従事者として正しい知識を身につけ、専門用語を使用した説明ができることを目指した講義を実施していく必要があると思われる。

正しい口腔清掃法や歯科疾患への技術や知識を身につけることは、将来の歯科医療従事者としての自覚を持つ一助となると思われる。

### V. 結 論

歯科技工士学生に対し、口腔清掃への意識と関心について調査をした結果、以下の結論が得られた。

1. 1日に3回口腔清掃を行うと答えた学生は、平成27年度生が44.8%，平成28年度生が51.5%，平成29年度生が56.0%であった。
2. デンタルフロスを知っていると答えた学生は、平成27年度生が44.8%，平成28年度生が51.5%，平成29年度生が56.0%，使用したことがあると答えた学生は、平成27年度生が69.2%，平成28年度生が64.7%，平成29年度生が64.3%であった。
3. 歯間ブラシを知っていると答えた学生は、平成27年度生が89.7%，平成28年度生が81.8%，平成29年度生が92.0%，使用したことがあると答えた学生は、平成27年度生が84.6%，平成28年度生が70.4%，平成29年度生が65.2%であった。
4. う蝕の進行について答えた学生は、平成27年度生では51.7%，平成28年度生では24.2%，平成29年度生では16.0%，歯周病の進行について答えた学生は、平成27年度生では17.2%，平成28

年度生では27.3%, 平成29年度生では36.9%であった.

#### 文 献

- 1) 厚生労働省：平成28年度歯科疾患実態調査  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/62-28->

02.pdf (平成30年 3 月13日閲覧)

- 2) 厚生労働省：平成28年度歯科疾患実態調査  
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/kekkgaiyou.pdf> (平成30年 3 月13日閲覧)